

教材・支援機器活用実践事例(特別支援学校版)

	実践名(実践年度)	スカイプを活用した行事参加(平成30年度)
参加する 授業に ついて	教科名等 (該当する教科名等を選択。当てはまらない場合はその他を選択し、次の単元・題材名の欄に記入。)	☐ 国語 ☐ 社会 ☐ 算数/数学 ☐ 理科 ☐ 生活 ☐ 音楽 ☐ 図画工作/美術 ☐ 家庭/技術・家庭 ☐ 体育/保健体育 ☐ 道徳 ☐ 外国語/外国語活動 ☐ 総合的な学習の時間 ☒ 特別活動 ☐ 自立活動 ☐ 各教科等を合わせた指導 ☐ その他の教科 ☐ その他()
	単元・題材名	スカイプを活用した行事参加。(始業式、終業式、運動会、文化祭等)
	授業の目標	①本校と院内学級をSkypeを活用してつなぐことで、集団への所属意識や連帯感を深める。 ②行事を通して学校生活の節目を感じる。
	観点別学習状況の 評価の観点 (教科の特性により設定した観点がある場合は「その他」を選択し記載。)	☒ 「知識及び技能」 ☒ 「思考力・判断力・表現力」 ☒ 「主体的に学習に取り組む態度」 ☐ その他()
	自立活動の要素	☐ 健康の保持 ☒ 心理的な安定 ☒ 人間関係の形成 ☐ 環境の把握 ☐ 身体の動き ☒ コミュニケーション
学習 (集団) の実態	学部・学年・人数	☐ 通常の学級 ☐ 通級による指導 ☐ 特別支援学級 ☒ 特別支援学校
		☐ 就学前 ☒ 小学生 ☒ 中学生 ☒ 高校生以降 ☐ 特定されない
		院内学級に所属している小学部～高等部まで
	対象の障害	☐ 視覚障害 ☐ 聴覚障害 ☐ 知的障害 ☐ 肢体不自由 ☒ 病弱・身体虚弱 ☐ 言語障害 ☐ 自閉症 ☐ 情緒障害 ☐ LD(学習障害) ☐ ADHD(注意欠陥/多動性障害) ☐ その他
子どもの 実態	子どもの課題 (特性・ニーズ)	☐ 聞く ☐ 読む ☐ 見る ☐ 話す ☐ 書く ☐ 運動と姿勢 ☐ 計算する ☐ 推論する ☒ 日常生活活動 ☒ 社会性・コミュニケーション ☐ 不注意 ☐ 多動性・衝動性 ☐ 覚える・理解する ☒ 時間的・空間的・人的交流の制約 ☐ その他 ・児童生徒の実態(病状、入院期間、知的障害の有無等)はさまざまである。特に、院内学級では、原籍校での学校生活のような大人数がいる場が少ない。また、時期によって在籍する児童生徒の人数が変動するため、大人数での学習の機会が持ちにくいことがある。さらに、長期入院中の児童生徒は、原籍校での運動会や文化祭等に参加することができないため、集団への所属意識、集団生活のあり方を考え、学校生活の節目をつけるため、本校と連携し、スカイプを利用し行事への参加を行っている。
ICT活用 について	使用した支援機器・教材の名称 (使用した支援機器・教材の名称を記載。なお、特定の製品に特化した実践の場合は製品名を記載。)	①パソコン ②Webカメラ ③スピーカー(マイク) ④インターネット(スカイプ) ⑤TV(画面表示拡大のため) ⑥HDMI
	活用のねらい (概要)	A コミュニケーション支援(☐ A1意思伝達支援 ☒ A2遠隔コミュニケーション支援) B 活動支援(☐ B1情報入手支援 ☐ B2機器操作支援 ☐ B3時間支援) C 学習支援(☐ C1教科学習支援 ☐ C2認知発達支援 ☐ C3社会生活支援) ・本校や院内学級をWebでつなぐことで、離れた場所においても互いの表情や場の雰囲気を感じながら、行事に参加することができる。
	活用方法	①本校とWeb(スカイプ)をつなぐ。 ②パソコンとTVをHDMIを用いてつなぐ。(児童生徒が本校や他病院の様子を見やすくするため) ③病院から発表(挨拶等)がある場合は、マイクを通して行う。
効果・評価	ICTを活用した授業での 子どもの様子や変容および授業の評価	・長期入院により、原籍校のように日常的に大人数がいる場の経験が少ない児童生徒にとって、ICTを活用し、本校や他病院とつなぎスカイプを通して始業式や終業式に参加することは、有意義であった。行事への参加は、画面上での参加ではあるものの、厳粛な場であることを理解し、その場にふさわしい態度で臨むことができた。また、学校生活における節目を感じる機会となった。
資料	図・写真・表等 (生徒の写真は個人情報公開の確認を取っているものとする。)	 